

○医師の診断を受けて、登所届が必要な感染症

感染症名	感染しやすい期間	登所のめやす
麻疹（はしか）	発症 1 日前から発しん出現後の 4 日後まで	解熱後 3 日を経過してから
インフルエンザ	症状が有る期間（発症前 24 時間から発病後 3 日程度までが最も感染力が強い）	発症した後 5 日を経過し、かつ解熱した後 2 日を経過するまで（幼児（乳幼児）にあっては、3 日を経過するまで）
風しん（三日はしか）	発しん出現の前 7 日から後 7 日間くらい	発しんが消失してから
水痘（水ぼうそう）	発しん出現 1～2 日前から痂皮形成まで	すべての発しんが痂皮化してから
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症 3 日前から耳下腺腫脹後 4 日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから 5 日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで
結核		医師により感染のおそれがないと認められるまで
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え 2 日経過してから
流行性角結膜炎（はやり目）	充血、目やに等症状が出現した数日間	感染力が非常に強いいため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後 3 週間を経過するまで	特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26、O111 等）		症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48 時間をあけて連続 2 回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されてから
急性出血性結膜炎	ウイルスが呼吸器から 1～2 週間、便から数週間～数ヶ月排出される	医師により感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎		医師により感染の恐れがないと認めるまで
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後 1 日間	抗菌薬内服後 24～48 時間経過してから
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まってから
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍 <small>かいよう</small> が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍 <small>かいよう</small> の影響がなく、普段の食事がとれるようになってから
伝染性紅斑（リンゴ病）	発しん出現前の 1 週間	全身状態が良くなってから
感染性胃腸炎（ノロ、ロタ、アデノウイルス等）	症状のある間と、症状消失後 1 週間（量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているため注意が必要）	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれるようになってから
ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に 1 か月程度ウイルスを排泄しているため注意が必要）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれるようになってから
RS ウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良くなってから
帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発しんが痂皮化してから
突発性発しん		解熱し機嫌が良く全身状態が良くなってから
A 型肝炎	発症 1～2 週間前が最も排泄量が多い黄疸発現後 1 週間経過するまで	肝機能が正常になってから
B 型肝炎	B 型感染ウイルスが検出されている間	急性の場合は症状が消失し全身状態が良くなってから（キャリア、慢性肝炎の場合は登園の制限はない）
単純ヘルペス感染症	水泡を形成している間	発熱がなく、よだれが止まり普段の食事ができるようになってから（歯肉口内炎のみであればマスク着用で登園可能）
伝染性膿痂疹（とびひ）	効果的治療開始後 24 時間	皮疹が乾燥しているか、湿潤部位が被覆できる程度になってから
アタマジラミ	産卵から最初の若虫が孵化するまでの期間（10 日～14 日程度）	駆除を開始してから
伝染性軟属腫（ミズイボ）		掻きこわし傷から滲出液が出なくなり被覆してから